

令和3年度 第58回

東京地区教員研修会

期日 令和3年6月4日(金)

会場 成城学園初等学校

(オンライン形式)



日本私立小学校連合会

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館6階

電話 03(3261)2934

昼過ぎにかけて強い風雨の吹き荒れた日でした。六月四日、東京地区教員研修会が成城学園初等学校を配信元としてオンライン形式で開催され、成功裡に終わりました。視聴参加を含めて合計一、五四八名の参加者は史上最高の人数となりました。六つの部会では、成城学園の児童の皆さんに登校してもらって研究授業を実施し、その模様をライブ配信、協議会をオンラインで行うなど、工夫のこらされた研修会でした。本研修会では初の「オンライン形式の研修会」として、まさに歴史の一ページを刻んだと思います。

終了後、成城学園の研究部長の古野博先生が自信と誇りをもって「ポストコロナ時代は、ハイブリッドの研修会が主流となるでしょう。そのため、契機となればうれしいです。」と言われましたが、今後は対面とオ

第58回東京地区教員研修会を終えて

東京私立初等学校協会

会長 重永睦夫

ンラインのハイブリッドの研修会が生まれてくることでしょう。期待したいところです。

前収録した動画を配信しました。成開会式は事

第58回東京地区教員研修会

東京私立初等学校協会
日本私立小学校連合会

会長 重永睦夫

令和3年度 第58回 東京地区教員研修会_FHDver

城学園初等学校の講堂をお借りして、清明学園初等学校横山豊治校長の司会のもと成城学園初等学校渡辺共成校長のご挨拶など、事前に参加者の皆様に視聴していただきました。また開会式では例年、永年勤続功労者表彰を行っておりますが、今回は会場校の成城学園初等学校の三名の先生方(桐谷乃宇奈先生、笹間俊彦先生、古川陽子先生)に代表して表彰状と記念品を受け取っていただきました。各校の先生方には郵便でお送りしました。

六月四日の研修会当日、私は成城学園にお邪魔し、十五部会の様子を拝見しました。午前七部会、午後八部会に分かれての実施でした。国語、社会、算数、理科、学校劇、外国語の六部会八授業は成城学園の児童の皆さんに登校していただいて研究授業をライブ配信。図工、生活・総合、音楽、メディア教育は事前録画授業の配信。体育は発表、家庭科は実技講演、学校図書館・学校保健は講演、学級経営はワークシヨップの配信と例年の対面形式と同じような多彩な内容でした。オンライン形式でしたので講師の中には遠く宮崎県からご講演いただいたという部会もありま

した。

いつものように会場校内の教室や廊下、中庭などに先生方があふれる姿が見られないのは寂しい思いもしましたが、風雨のなか登校した成城学園の児童の皆さんと全教職員の皆さん、そして部会運営委員の先生方の息吹が充満して感じられたのがとても嬉しいことでした。さらには画面に映る先生方の息吹も吹き出ているように見え素晴らしい研修会となりました。

何よりも素晴らしかったのは研究授業に風雨のなか登校してくれた児童の皆さんの元気の良さ、屈託のなさ、はつらつとした授業参加の姿でした。さすがは名にし負う成城っ子だと感心したところです。創立百年を記念して建てられたばかりの校舎は木がふんだんに使われているのですが、教室天井のジャンглジムのような組み木は見事です。この校舎にふさわしい児童の授業を拝見でき、対面の良さも感じる事ができました。研修会でした。

紙幅も尽きてまいりましたが、最後に、コロナ禍という困難を押して会場校を引き受けてくださった成城学園初等学校の渡辺共成校長先生を

はじめ教職員の皆様、参加児童並びに参加を許可してくださった保護者の皆様、各部会の運営委員並びに配信サポートの皆様、参加者の皆様そして機材等の調達をはじめ裏方として支えてくださった東初協事務局の皆様に厚く感謝申し上げます。

国語部会

魅力ある国語教師を目指して

吾孫子 雄希(雙葉)

本部会では、成城学園初等学校国語部の先生方から「お互いの個性を尊重し合う子どもたちを目指す授業とは」を問い直し、個人の発想や思考を大切にしながら、それらを生かす場を国語の授業でどのように設けていくかについて、提案がなされた。

目指す子どもたちの姿は「疑問を大切にし、意見を認め合い、互いの『個性』を尊重できる子どもたち」である。中学年部会では、鈴木秀典教諭が四年生を対象に、「走れ」(東京書籍・四年上)を扱い、「人物の関係を捉

えながら読もう」という目標で授業を行った。「いい家族」とは何かを叙述の中から根拠として出させ、考えを深めることができていた。「このお話、桐組みたいだね」と書いた子どもの感想をもとに、一人ひとりが自分たちの生活に落とし込んで考え、クラスメイトとの絆、つながりを改めて感じさせることができていた。

高学年部会では、木村大望教諭が六年生を対象に、「お互いの作品の良さを見つけよう」という目標で、俳句作りの授業を行った。本実践では、子どもたちの発想や思考を促す手立てとして、事前に一冊の本を課題図書として、子どもたちに与えている。この本を読み進めながら、俳句についての互いの意見を交換し合う中で、俳句には、その子なりの見方や考え方が表れてくること。俳句を読むことを通して、イメージを共有しながら、見方や考え方、感性が表れてくることを実感させることができていた。

どちらの授業においても、児童がより良い解釈、表現を目指し、自己と他者の考えを尊重し合いながら、新たな自己の表現を創造することができていた。

協議会后、中学年部会では、吉永安里氏（國學院大學准教授）が「個を活かす授業づくり・単元づくり」、高学年部会では、岩田一正氏（成城大学教授）が「教室の対話、そして教室で共に学ぶ意義」というテーマのもと、講演を行った。

吉永氏は、「エージェンシー」という言葉を取り上げ、そのエージェンシーを発揮するための二つの要素①一人一人にカスタマイズされた学習環境（個別最適化）、②基礎的な力（国語）でいうならば読解力」を大切にしながら授業作りを考えていく必要があると主張された。

岩田氏は、文学作品を通じて、我々は自分の条理とは異なる不条理なものに出会うのである、そのものについて条理に即して説明することは難しい。授業としては、子どもたちから興味深い考えが出たところで、ペア、グループの学習を取り入れ、関連する箇所を改めて読み直し、発言した子どもが触れた

不条理なものに触れてもらい、それぞれが触れたもの、読み描いたものを交流することが重要である。これらを反復することが、文学作品を一人で読むことにつながり、教室で仲間と共に作品を読む意味になりうる」と主張された。

「お互いの個性を尊重し合う子どもたちを目指す国語授業づくり」のヒントを得ることができ、本部会も実り多い研修となった。

社会科部会

社会科授業の基礎・基本を
初任者の先生による授業で
語り合う

桑原 正孝（日本女子大学附属豊明）

今年度の東京地区教員研修会での社会科部会のテーマを「社会科授業の基礎・基本」と設定し、配信による授業公開および講演を行った。前半は、今年度成城学園初等学校に赴任された上村日向子先生の「店ではたらく人と仕事」（三年）の公開授業

が配信された。成城学園初等学校社会科部の先生方が日頃積み重ねられてきた授業研究の中での「社会科授業の基礎・基本」を初任者の上村先生が正に教師としての初めての年度に、子どもたちとつくる授業の中で体現しながら今日の授業はもちろん、事前・事後の授業研究会を含めて学ばせて頂く貴重な機会となった。

当日の授業は、体験活動を通して、主体的に調べる成城学園初等学校の児童の特性や個々の生活経験を活かしながら、消費者の願いやスーパーマーケットの販売の工夫について、魚売り場の一枚の写真を資料として気づきや疑問を発表しながら授業が進められた。本来ならば現地に赴いて児童が見学した上で授業を行いたかったが、今年度はコロナ対策のため、それがかわらず、代わりに上村先生が足繁く魚売り場に通い、消費者の目線で撮影した。その中の一枚の写真に児童は様々な形で気づきを見出し、自分たちの生活とのつながりを意識して意見を発表し、それらを分類しながら学習問題を作り上げていく活発な授業が展開された。

後半は、部会テーマと同じく「社





会科授業の基礎・基本」を演題として東京学芸大学次世代教育研究センター教授櫻井眞治氏に授業の講評や授業を巡る話し合いを交えながら、お話を頂いた。まず、上村先生の

に迫りながら本時の出口までどう誘うかについても授業に基づいて考えることができたことは、他の初任者の先生方にとっても貴重な時間となったはずである。

授業実践について、資料を見ながら思い浮かんだ事柄についての発表を大事にして皆で進んでいくとした姿勢を評価した上で、社会科授業の基礎・基本としての学習問題の設定について問い直しがあつた。また、子どもたちの意見を丁寧に収集した板書のあり方の中で、本時のねらいに迫るもの、今後の単元の学びに発展的につながるもの等の分類を色チョークを使用して行うなど、方法としての具体的なアドバイスも頂いた。活発な子どもたちとゆっくり考える子どもたちをどうつないでいくか等、子どもたちと一緒に学習問題

櫻井先生は講演のしめくくり、社会科授業の中で大切にしたいこととして、「事実をもとに考える」「様々な人にとってどうなのかを調べ、考え、検討する」「仲間と共によりよいくらしに向かっていく」を挙げられた。櫻井先生自身、かつて小学校教師として先輩の先生方に、社会科の授業を行っているのなら、学級経営においても様々な仲間と共に学級をより良くするために向かっていくかと問われたことが原点にあるという。今回は、初任者の授業を参観させて頂いたが、櫻井先生からの「実践スタイルの自覚と挑戦」の言葉は、経験年数問わず教師として常に念頭に置きたい。

算数部会

「!」「?」からつながる

みんなの授業づくり

鈴木 純(学習院)

午前に行われた研修会では、オンライン(zoom)を用いて二本の算数

科の授業が公開されました。三年「あまりのあるわり算」(菊地良幸先生)、六年「比」(小田有先生)の授業が行われました。

三年生の授業では、「たまねぎが□こあります。一ふくろに四こずつ入れると、何ふくろできますか。」という発問をもとに、わり切れないわり算に気付き、どのように解決していくのかを考える授業でした。菊地先生が実際に玉ねぎを提示することで、子どもたちは実践的に考えて、わり算とあまりの関係を意識しながら問題解決をすることができました。

六年生の授業では、子どもたちが以前作ったスライムを題材にして小田先生が「量を変えて、同じ柔らかさのスライムを作るにはどうしたらよいでしょうか。」と発問することで授業が始まりました。子どもたちは、図を用いて積極的に考えていました。廉測量や差、簡単な割合に近い考え方などについて、子どもたちは前向きに議論をしていました。協議会では、子どもの視点からこの場面をどのように捉えるのかを深く考えることができました。

研究授業と協議会のあとは、東京

学芸大学教育学部教授でいらつしやる中村光一先生による講演会が行われました。「現代の算数教育に求めるもの」をテーマにお話をいただきました。平成十九年度全国学力・学

習状況調査(中学校)などの事例を示していただきながら、目指すべき数学教育の方向性として「人間形成に数学教育が役割を果たすこと」「子どもたちが数学的活動の本来の姿に



接する機会を作ること」「子どもたちが将来数学を学ぶ可能性を保证すること」「自分で考えて振り返る機会を持つこと」を大切にすること」の四つの提言をいただきました。考えることへの自信、学ぶことの大切さ、学ぶためのスキルを身につけること、必要なことを自分で考え、準備できる子どもたちを育てることの意義を教えていただきました。

今年度の日私立東京地区教員研修会で算数研究部に参加された方は

一一八名でした。

理 科 部 会

おもしろい理科の授業をつくる

吉金 佳能(宝仙学園)

理科研究部の研究主題は、今年度も「おもしろい理科の授業をつくる」である。このテーマは、もう何十年も変わっていない。なぜ楽しいではなく、おもしろいなのか。それは、

探究心を刺激するのは、楽しいではなく、おもしろいからではないか。おもしろいこそが、学びの原点なのである。そして、学びをつくる我々教員こそ、おもしろがるのが、何より大切なことなのではないか。今回の研修で、成城の授業を観ていて、そんな思いがわいてきた。

さて、二年ぶりとなった東京地区一斉研修は、成城学園初等学校にお世話になり、オンラインで実施された。

前半は、成城学園初等学校の林聖也教諭による、三年理科の授業を対

象にした授業研究。成城は「多様性」をテーマに、独自の理科カリキュラムを作成している。今回の授業は、そのスタートとなる三年の昆虫の学習であった。

「自分だけの昆虫を考えよう」というテーマで、子ども同士が交流しながら、学びを広げ深めていく姿が印象的な素敵な授業であった。

聞けば、今回の授業は、成城の三名の理科の先生で練り上げてきたという。カリキュラム作成と合わせれば、相当な時間が掛かったことは容易に想像ができる。

成城は小学校教育のよりよき改造と進歩に寄与するための「実験学校」として創設された学校である。創立百年を越えた今でも、その使命が脈々と受け継がれているのだ。

先人たちの研究をいまへ繋げ、伝統を磨きながらも、常に先を見通し、より良いものは積極的に取り入れていこうとする姿勢に感服した。私学人としてのあるべき姿を見た思いであった。

後半は、昭和女子大学の白敷哲久准教授による講演、「子どもの発想を活かして創る楽しい理科」。主にSTEAM教育について、海外の事例

を交えてお話しいただいた。
特に印象的だったのはSTEAM
教育の話の中で出てきた、E

践を見せ合い、
力を入れていく
磨き合う場づくりに



(Engineering) と
A (Art) を意識す
ること、より豊か
な学びが実現でき
る、という話だ。
学んだ上で何かを
つくるのが、これま
での教育。つくるこ
とが学びにつながる
(Tinkering)、とい
う視点がこれからの
理科教育には必要で
あり、その時に、E
とAがあることで、
より豊かで深い学び
につながるかと教え
ていただいた。

おもしろい理科の
授業を追究するため
には、情報が必要で
ある。実践と研究は
表裏一体でなければ
ならない。東初協理
科研究部は、質の高
い情報を交流し、ま
た同時に挑戦的な実
践を見せ合い、
力を入れていく
磨き合う場づくりに

図工部会

関 隆弘(東洋英和女学院)

今回の研修会はオンライン形式に
て行われました。前半は、成城学園
初等学校美術科(彫塑担
当)の橋本正裕先生によ
る二年生「さわって か
んじて みつけよう!」
という土粘土を扱った題
材の公開授業・協議会で
した。授業の様子は動画
として事前配信してくだ
さいました。事前配信の
動画では、映像だけでな
く、子どもたちのつぶや
きなど音声もしっかりと
フォローされており、ご
準備くださった成城学園
の先生方には大変感謝し
ております。参加者の中
には、事前に十回以上も
視聴なさった方もおり、
オンライン形式ならではの

の良さを感じました。

授業は和やかな雰囲気のもと始ま
り、子どもたちは、土粘土との触れ
合いを通して、それぞれに素材の特
徴や変化を感じとりまします。それらは
活動に還元され、ダイナミックな活
動へと展開されていきました。人間
のもつプリミティブな表現欲求を垣
間見ることができ大変興味深いもの
でした。協議会での話し合いでは、



個々の感想や意見をいつも以上に全体で共有することができ、有意義な時間となりました。

後半は、早稲田大学教育・総合科学学術院教授の大泉義一氏をお招きし「授業を通して育まれる資質・能力と学習評価」と題した講演をしていただきました。図画工作科における「学習評価」について、橋本先生の公開授業などを踏まえ、大変分かりやすくお話してくださり充実した内容でした。

一日を通して実り多き研修会となりました。

体育部会

よりよい体育授業の

在り方について

風間 啓介(明星)

昨年度の体育部研究テーマは「主体的・対話的で深い学びのある体育授業を探究するための研修会の在り方について」でした。多くの先生方にご提案いただく中で、「対話」を

キーワードに、授業の在り方について提案された研修会が大きな成果でした。「対話」という言葉を軸に授業提案をされたことで、参観された先生が意欲的に意見を交わしていました。これまでの研修会では、私立小学校の建学の精神のもと、独自性のある教材や教育手法の提案の場になっている側面もありました。ただし、学校それぞれの独自性を発表するのではなく、共通に語れる研究テーマに沿って提案をすることで、「自分ならこうやって考える」と立場を持つて研修会を行えたのは大きな成果でありました。つまり、「主体的・対話的で深い学びのある体育授業を探究するための研修会の在り方」を目指す研修会を行う上では、先生方が立場を持てるテーマやキーワードを掲げ、提案することが重要であるということがわかりました。

令和二年度の研究成果と課題を受け、今年度は研究の成果を子どもたちの姿で表せるテーマがよいと考えました。加えて、研修会のアンケートには、「コロナ禍でどのようなして体育授業を意欲的に学ばせられるか。」「子どもが夢中になって授業に

取り組む教材を知りたい。」「体を動かすのを好きにするにはどうすればいいか。」といった、学習に対する意思的な側面について質問される声が多く挙がりました。そこで、今年度の研究テーマは「学びに向かう力」に焦点を当て、「体育授業における主体性とは。」とし、年間を通して追求していくことを研究部では提案をしました。

今年度の日私小連東京地区研修会では、全体テーマを「よりよい体育授業の在り方について」として、オンラインで研修会を行いました。

第一部では、「水泳運動における『安全確保につながる運動』の実践報告」というテーマで、成城学園初等学校の酒井和也先生から提案がありました。いくつかの水泳活動での事故事例から、一定以上の泳力だけでなく、児童は自分の命を守る知識について学習する必要があるということを示されました。そして、指導するための水泳授業カリキュラムの必要性や、具体的な実践について提案されました。

第二部では、「体育授業にお

ける主体性とは。」をテーマに、聖心女子学院初等科の山口真先生から提案がありました。主体的に体育授業に臨む児童像を「なりたいたい自分を思い描く姿」「できるかも、やってみようとする姿」「課題を自分事と

水泳運動における 「安全確保につながる運動」 の実践報告



成城学園初等学校
酒井 和也



して捉え、解決しようとする姿」と定義され、その姿になるための手立てや教材について、授業の様子を例にあげながら発表されました。

オンライン研修会は初めての試みでありましたが、第一部・二部共に、チャットやブレイクアウトを使い、多くの先生方で意見を交わしたことで、学びの多い研修会となりました。

最後に、企画・運営をしていた成城学園初等学校の教職員の皆様のご尽力により実りある研修会となりました。厚く感謝申し上げます。

メディア教育部会

授業が変わるICT活用

岡田 俊介(聖学院)

今年度の東京地区メディア教育研究部のテーマは「授業が変わるICT活用」としました。GIGAスクール構想によって一人一台端末が整備されています。また、昨年度から続くコロナ禍で授業のオンライン化など、ICT活用の場面はますます増

えてきています。そのような中で、これからの教育について考える第一歩として海外のICT教育に詳しく、武蔵野学院大学の上松恵理子氏に「海外の授業とICT 日本の教育のこれから」と題してご講演いただきました。また、公開授業は成城学園初等学校(以下成城学園)の秋山貴俊先生による「iPadの良い使い方を考えよう」という四年生の授業の録画を視聴させていただきました。

前半の授業視聴は、YouTubeの限定配信の形でZoomに入室された先生方にURLを共有してそれぞれでご視聴いただきました。とても広い教室で椅子(座面を裏返すと机になる)を自由にレイアウトできる空間を最大限に活用したワークショップ型の授業でした。今回の授業は、「デジタルシブズンシップ教育」と呼ばれるもので、アメリカやヨーロッパで行われており、日本で行われている「情報モラル教育」と近いですが、その目標は大きく異なるものです。教材はCommon Sense Educationという団体のレスポンスランで、サイトに登録すれば無料で使うことができ、国際大学の豊福晋

平先生のチームが翻訳したものです。このレスポンスランは幼稚園から十二年生までの教材があります。

成城学園には「映像」という教材があり、映像部の先生によって研究が始められているそうです。今回の授業を視聴し、「これは危ないや」、「こういう使い方をしてはいけない」といった抑制的に指導していく文部科学省の情報モラル教材とは大きく違い、デジタル社会の市民として、より良い使い方を考えるというポジティブで新しい指導法に出会うことができました。

後半は上松恵理子先生による講演をZoomミーティングの形で行いました。教育の最先端は二十一世紀型スキルではなく、Education 2030であること、国語教育をベースに、グローバルスタンダードが「情報の取り出し」、「テキストの解釈」、「熟考と評価」であり、これまでの日本の教育とは質的に違うことをスウェーデンやデンマーク



の事例を交えてお話していただきました。

スウェーデンやデンマーク、イギリスといったヨーロッパの国々が二十年以上かけて積み上げてきた教育を、数年で実現しようとしている

現在の日本は、私たちが思っている以上に先を見越してやっていかなければいけないことを教えていただきました。

今年度の研修は例年と違いオンラインという形で行われたこともあり、メディア教育研究部としては初めて百二十名を超える参加者をお迎えしました。お忙しい中、公開授業の編集やホスト校として準備をしてくださった成城学園初等学校の先生方に改めて感謝を申し上げます。

学校図書館部会

学校図書館でSDGsを考える
様々な教科で学校図書館を使う

小室 麻友(国立学園)

学校図書館研究部の第一部では、『クジラのおなかからプラスチック』（旬報社）の著者、保坂直紀氏の講演で、主に海洋プラスチック問題についての話を伺いました。

保坂氏の研究内容から、海洋プラスチックごみの発生と種類、海に集

まるしくみなどを写真やデータを交えて詳しくお話いただき、子どもたちに伝えたいこと、私たち教員にできること、伝えられることも考えさせられる内容でした。

第二部では、成城学園初等学校の図書の一部と、教科での図書室の利用例の紹介ビデオを視聴した後、各校の教科での図書室利用についての取り組みや、図書室運営についての情報交換を行いました。

図書室紹介は児童が進行し紹介する形式で、配架のこと、図書委員会の活動について等を説明してある微笑ましい動画を見せていただきました。その後の質疑応答で、蔵

東京私立初等学校協会
東京地区教員研修会
2021年6月4日

地球を守るために子どもたちに伝えたいこと 海洋プラごみ・地球温暖化...



保坂 直紀

サイエンスライター
東京大学特任教授

書数や委員会活動、運営体制や利用システムについてお話しいただき、それらの情報も踏まえ、各校の図書室運営についての情報交換会へと移行、教科での利用状況や、コロナ対策、タブレットの導入状況、調べ学習などについて情報共有、意見交換を行いました。

学校劇部会

子どもたちに心のつながりを
〜今できる・今こそしたい
劇活動〜

保坂 弘之(成城学園)

学校劇研究部の今年度の研究テーマは、「子どもたちに心のつながりを〜今できる・今こそしたい劇活動〜」です。

今回の研修会では、ウィリアムス雄史先生（啓明学園）による研究授業と私、保坂による実践発表「児童創作による舞台発表まで」をオンラインにより、行いました。

参加者が多かったために、発言できなかつた方がいたり、時間が足りなかつたりと課題はありましたが、図書室運営を一人で担っている学校も多く、直接会って話すことができない中、オンラインとはいえ一堂に会しての研修は今後の活動にも生かせる有意義な活動となりました。



研究授業では、成城学園初等学校四年竹組の児童を対象に「友達と協力して写真表現をしよう」というテーマで、授業が行われました。授業は、成城学園初等学校からカメラ

二台、Ipad二台を使つてのライブ配信で行いました。

「〇〇〇十楽しいという言葉で場面を創ろう！そして写真を撮ろう！」コロナ禍ということを配慮し、声を出して劇的な発表をするのではなく、Ipadに写真を撮つて、それを発表する形を取りました。

六つの班に分かれた子どもたち。封筒を一袋引いて、中に入つたお題を班ごとに確認します。

各班が引いた題は
「ねむ楽しい」
「かな楽しい」
「ひま楽しい」
「むずかし楽しい」
「めんど楽しい」
「わる楽しい」でした。

そこからは、班ごとに、まず絵コンテで写真の構図を相談し、その後、Ipadを使って撮影に入りまし

た。各班とも、まず「〇〇〇十楽しい」をどんなイメージにするのか、話し合いをしていました。子どもならではの、柔軟な発想がどんどん出てきていました。絵コンテでは、四枚まで写真は撮影OKになっていたのですが、その段階では、四枚とする予定だった班も、いざ撮影になると、思うようにはいかない所もあり、制限時間が来たところで、班ごとの発表・クイズ大会になりました。

写真からお題を当てるのは、なかなか難しかったのですが、六つの班、それぞれ工夫した写真が撮れ、たくさんさんの表現が出、とても楽しい授業となりました。

後半の実践発表では、三月に成城学園初等学校劇の会で、六年藤組で行つた児童創作の舞台発表までの報告をしました。ストーリーは決めておくけれども、セリフは取って脚本化しない「口立て」での上演」までの取り組みを発表しました。

「児童創作」での舞台発表をする時には、「自分たちで創る」という意識を持たせる大切さ、その中で子どもたちと指導者である私との関わり方についてのエピソードなども交えて発表させていただきました。

オンラインという制約がありましたが、充実した研究会になりました。

外国語部会

児童が意欲的に英語を使う授業

竹川 舞(国立音楽大学附属)

外国語部会では、成城学園初等学校の今井英雄先生、ロブ・ミクフワイト先生に授業をしていただき、その後、成城学園初等学校の英語教育の紹介、ZOOM上での協議会を行った。「People in Town」という単元で行われた授業では、

① Who works at (場所)?

② Where do (働く人) work? の二つをキーセンテンスとして街への関心を高めながら児童が言語活動に取り組んでいる姿が見られた。ネイティブの教員とのスモールトークの中では学校がある「成城の街」についての話題を通して児童が身近な話題を通じて授業へ参加することができると先生が感じられた。今井先生がおかしな街を紹介すること

で、児童は理想の街には何が必要かということを考えていった。この活動ではパワーポイントを用いて理想の街に必要な建物や人を表す英単語の確認が行われたが、今井先生の作成した教材の質の高さが感じさせられた。児童の反応に即座に対応できるように、オブジェクトをクリックすると任意の建物がスクリーン上に現

れるという大変時間がかかるパワーポイント教材の作成の甲斐あってか、多くの児童が街に必要なものを発言したいという思いをもって挙手しているように見られた。その後、パターンプラクティスを経て、児童はインフォメーションギャップのある街のワークシートを使い、今回のキーセンテンスを用いながら楽しんで英語を話していた。コロナ禍で向き合っているグルー

プ活動の難しさがあつたが、各グループで積極的に発話している姿が見られた。授業の振り返り・内容確認として、Quizizzというアプリケーションを用いたキーセンテンス・語彙の確認クイズが行われた。リアルタイムで正誤や正答率を見ることができるといふ利点があり児童は楽しみなが

ら内容確認をしていた。また、一文程度の授業内容に対しての振り返りを毎時行っており、児童の反応を見ながら次時に活用するとおっしゃっていた。

今回はコロナ禍のため、実際の授業をオンラインで生配信するという試みをしており、児童の発言や活動の様子を参加者が見ることができるよう iPad を使ってその様子を二方向から撮影した。計四台のカメラと ICT を駆使した配信で、今回の先生方の授業の活発な児童とのやりとりを見学することができた。

音楽部会

音楽を通してのふれあいと学び
表現する楽しさを忘れないために

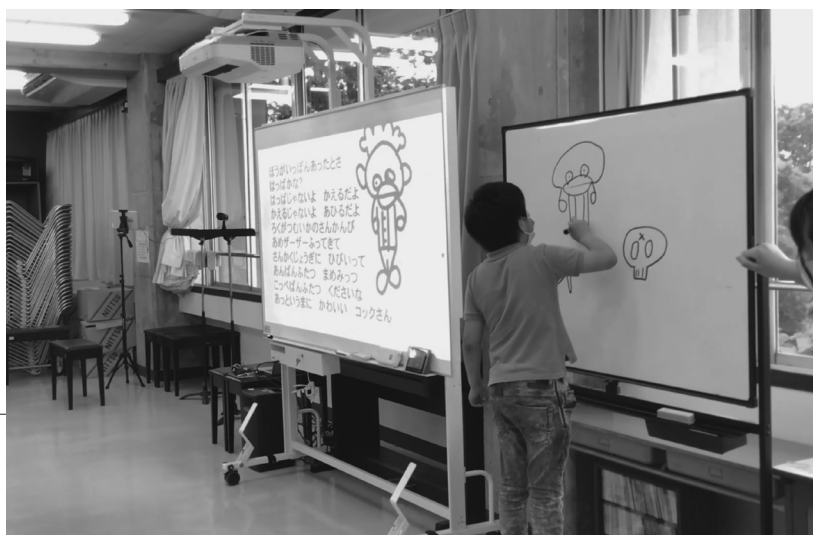
室伏 唯史(学習院)

今回の研究授業は、予め動画を撮影、編集したものを事前に YouTube で閲覧し、研修会当日に研究協議会を行う形式をとった。内容は成城学園初等学校の安川えりか教諭の二年櫟(くぬぎ)組の授業と昨年度実施された「音楽の会」の二部構成で閲覧してもらった。

本時単元名は「コロナ禍の思いっきり音楽!」であった。始業のチャイム後、安川教諭は児童の気持ち



落ち着けるために、二言三言ことばがけをした。児童は、やさしく響くピアノのメロディーとともに「さわやかなあさ」を斉唱する。学校の朝の風景を思い描いた、心休まる歌詞である。歌唱後は本時の動画撮影をすることを児童に伝え、児童もカメラ越しに挨拶を交わしてくれ、授業



けに直ぐに手が上がる。電子黒板に映し出された正解のたびに、児童の驚きや喜びの歓声が上がる。「自分以外の人の声に気付くこと」を授業のねらいに含んでいたが、児童たちとかかわり深い、先生方の声を用いたことで驚きや喜びがいっそう増幅され、音楽を楽しむ一体感が生み出

が始められた。
まずは、先生の手拍子に合わせて、コミュニケーションづくりをはかる。ゆつくりとした拍からだんだん早くなる。先生の拍に合わせてようとす児童たちの意識が、授業への意欲を高めていった。無理に押し付けることなく、自然と授業へ気持ちに向いていくようにという、安川教諭の配慮がうかがえる。
つぎは、電子黒板に映し出された歌詞を見ながら「地球賛歌」の斉唱。歌い終わると、櫛組児童と関わりのある先生方の歌った同曲の録音が流れる。誰の声か、の問いか

された。自分以外の声に気付かせる興味付けになった、素晴らしい発想だと感心させられた。
授業の中盤、電子黒板には「絵かき歌」の表示がされる。本時では「山があつて」「がいこつ」「ぼうがいっぱん」の三曲が取り扱われた。数名の児童が前へ出てCDの音楽に合わせてホワイトボードに絵かき歌を披露した。この場面では、曲の拍に合わせて歌いながら描く作業も進めなくてはならない。飽きることなく、何回でもユーモラスな絵を描く楽しさもこの題材の味わいのひとつである。

最後の場面は、「やおやのおみせ」となった。歌のあとに提示された品物の有無を拍に合わせて「ある」「ない」で答える歌遊びである。瞬時に判断するゲーム性に富んだ場面を授業のなかに取り入れることも、題材に飽きることなく取り組める要素を含んでいる。
本時では、様々な場面を通して、児童が夢中になって音楽に取り組む姿を窺うことができた。夢中になること、すなわち「思いつき」に通じていたのである。コロナ禍でも新しいかたちで夢中になり、教師も児童も共に思い切り取り組めた授業だった。

今回、日本即興コメディ協会から四名の講師（横内浩樹先生、加古俊彦先生、福島あずさ先生、野村真之介先生）をお迎えし、「居心地の良いクラスを作るには？」心理的安全性ワークショップ」についての

児童も共に思い切り取り組めた授業だった。
協議会は、司会との対談形式で行われ、安川教諭の授業に対する思いや教材づくりのヒントとなる書籍など紹介された。部会の先生方より、授業についての感想や質疑ののち成城学園初等学校音楽科の重見、須田両教諭も加わり、昨年度実施した「音楽の会」での企画運営から、感染対策を講じながら指導や開催のご苦労などをうかがった。

学級経営部会

居心地の良いクラスを作るには？
心理的安全性

ワークショップ

江田 祥子（青山学院）



研修を行いました。
はじめに、心理的安全性についての理解を深めました。心理的安全性は共創（多様な立場の人と対話をして、新しい価値を共に創りあげていくこと。異なる意見をもっている人たちが協力して、新しい商品やサービスなどを作り出していくこと。）

が土台となっています。

心理的安全性には六つの要素が必要で、

- ①失敗について熟知し、オープンにできる。
- ②言いにくいことも指摘し合える。
- ③多様性を歓迎できる。
- ④お互いにフォローし、目標に向かえる。

⑤お互いにリスペクトし、仕事を任せ合える。
⑥意義ある対立を恐れず、共創的に問題を解決できる。

実際に「心理的安全性の高い職場」と言われる職場は次のようなことが実現されています。

- ・先輩の先生に「授業のフィードバックをください。」といえる。
- ・必要以上に失敗に対して申し訳ないと思わないでいられる。
- ・管理職の間違えを伝えられる。
- ・職員室が和気藹々としていて、雑談もできる。
- ・新しい取り組みでも

「とりあえずやってみたら」と背中を押してもらえ。

後半は、心理的安全性を醸成させていくためのワークショップを行いました。次の三点がポイントです。

- ①相手のアイデアや意見、感情を一度肯定的に受け入れてリアクションし、そこから生まれてきたアイデアや意見、感情を付け加えて返す。

② Yes、But や No、Because とは違い相手の言っていることを詳しくする、発展させながらコミュニケーションをとる。

③自分も相手も知らないような新しいゴールがあるのではないかと共創しながら答えを見つけ出していくコミュニケーションをとる。

No（無理、無駄、難しい）からYes（いいね、そうしよう、ありがとう、それはちょうど良い等）へ変えていくだけで心理的安全性が醸成されます。

実際に心理的安全性を醸成するインプロゲームを体感しました。これはチームに必要な要素（ルール）をゲームを通じて共有し認知（共有的認知）させることに用いていました。楽しく遊んでいるように見えても実は心理的安全性に必要な要素をチーム

ムに落とし込むためにしていました。

失敗をいかしながら新しいチャレンジをしていける環境作りを目指し、教室や保護者会、オンライン授業でも実施できる内容でした。今年度の学級経営部会のテーマ「子ども・保護者・教師のよりよい関係作りを目指して」のもとに大変有意義な研修会となりました。

家庭科部会

新しい暮らし方に

合わせた家庭科教育

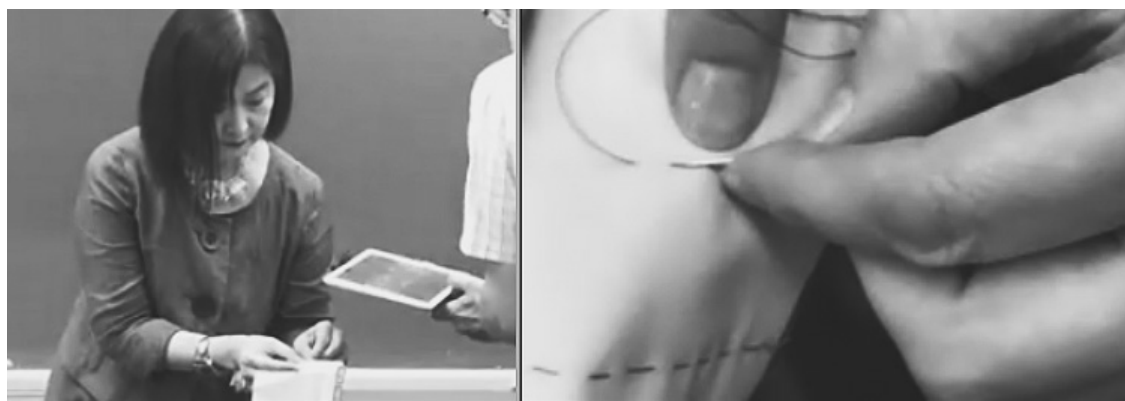
明石 ゆかり（武蔵野東）

「大人も楽しめるフェルト手芸」

ジャノメミシンソーイング教室
講師

城島 香織氏

今回の研修では、ミシン針、手縫いの基本を学び、フェルトを使った手芸の研修を行った。



一、手縫い針、糸について

針は和針、洋針、刺し子針、刺繍針など、様々な種類がある。和針とメリケン針の大きな違いは穴の形である。和針の穴は丸く、メリケン針の穴は縦に長くなっている。そのため、メリケン針の方が糸が通りやすい。針を選ぶ時は布や糸に合わせることで、そして自分に使いやすい針を選ぶことが大切である。

手縫い糸の多くはカードに巻いてある。しかし、巻いてあることによって糸に角ができてしまい、縫いづらくなる原因となっている。そのため、縫う前にアイロンをかけのばしておくことで使いやすく縫いやすくなる。アイロンをかけるとより使いやすくなる。

二、手縫いについて

どの縫い方をするにしても、玉どめ、返し縫いが基本である。今回は基本の縫い方を一つ一つ実演しながらポイントを丁寧に説明していた。

基本の縫い方である、なみ縫いは三、四ミリで縫う方法で、縫った後に糸こきをするのが大切である。ぐし縫いは〇・一五〇・二ミリの縫

う方法で、丸みに沿わせて縫う時に最適である。半返し縫い（アウトラインステッチ）、本返し縫い（バックステッチ）はなみ縫いより丈夫に縫うことができるため、しっかりと縫いたい時に効果的な縫い方になる。本返し縫いは戻る時同じ穴に入ることできれいに縫うことができる。

まつり縫いは「たてまつり」「流しまつり」「奥まつり」「コの字まつり（はしごぬい）」「千鳥掛け」があり、それぞれの縫い方を実演していただいた。まつり縫いは糸を引きすぎず、ゆるみを持たせるときれいに仕上げるができる。表に出る場合は布の繊維の糸一本か二本すくうように縫うと美しく仕上げるができる。それぞれ、縫う場所に合わせ選んでいくことが大切である。

三、フェルトを使った作品づくり

簡単でかわいい作品三つを紹介していただいた（赤ずきんちゃんの針刺し、「ひまわりのモチーフ」、「ハートの針刺し」）。刺繍の刺し方も一つ一つ丁寧に教えていただいたため、思ったより簡単にきれいに縫うことができた。普段挑戦することがなかった刺繍を知るきっかけとな

ることができた。図案は子供用の塗り絵を使うと子ども達が作りやすいということも教えていただいた。図案、縫い付け方を変えることで個性豊かな作品になるのではないかな。

学校保健部会

新しい生活様式における

養護教諭の在り方

萩谷 祥（明星学園）

今年度の学校保健研究部会は、「新しい生活様式における養護教諭の在り方」をテーマに取り組んでいきます。コロナ禍における学校経営に、養護教諭の存在は今や必要不可欠となっています。昨年度から突然の休校を経験し、学校再開に向けて誰もが経験したことのない日々がスタートしました。そんな生活から一年ほどが経ち、ようやく色々な対応にも慣れてきました。各校毎日試行錯誤でコロナと戦っている中、養護教諭がどのように存在意義を見いだしていけるか、一緒に考えていきたいと



思います。

今年度初めてのオンラインでの研修となった東京地区教員研修会でしたが、ようやく東京地区の先生方と画面越しではありますが、お顔を合わせることができ、とても有意義

な時間を過ごすことができました。

第一部では、毎年大好評をいただいている近藤卓先生をお招きし、「自尊心感情から考える子どもの危機〜いじめ・いのちの体験・PTG〜」をテーマにご講演いただきました。近藤先生のご講演は今回で四年目(昨年中止だったため三回目)ということで、自尊心感情のおさらいをしてから、今回の主なテーマである、いじめ・いのちの経験・PTGのお話を伺いました。

今は、子どもの危機の状態で思っています。大人が危機的な状況にある中で、子どもたちが間接的に困難な状況にいると感じています。人間関係に必要なコミュニケーションの基本形である『向き合う関係(関係ができた)』『並ぶ関係(関係が深まる)』のバランスがとても重要であることが、全てのテーマにお

いて言えることだと思っています。

PTG(心的外傷体験後成長)の話しの際に、日本の伝統的な文化の『金継ぎ』に例えられてお話くださったことがとても心に残りました。色々な局面から成長する可能性があるというのがPTGの概念です。傷ついた心の傷は決してなくなることはないが、新たな経験や可能性で金継ぎのように価値のある物に成長していくのだと思いました。

第二部では、情報交換会と題し、養護教諭間で現在の悩みや特にコロナ禍における各学校の取り組み等について情報交換をしました。宿泊行事や熱中症対策、ICT教育が進むことでの健康課題、健康診断の実施方法等について貴重な情報を共有することができました。学校の中でも一人職場が多い私たちにとって、部会の先生方とお話できる時間はとても大切な時間であり、日々辛いことがあっても同じ仲間がいるんだと改めて励みになった時間でもありました。部会の中でも、日々メールやコミュニケーションツールを使用しながらやり取りはしていますが、やはり画面越しでもお顔を見ながら話をする喜びは大きいなと思いました。

生活・総合部会

散歩科を詳しく学ぶ

大谷 一途(慶應義塾)

散歩科。会場の成城学園初等学校ならではの授業を、動画配信とはいえ、久々に拝見することができた。

散歩科は、昨今の一時間の授業の中で、どんな指導が行われ、成果が上がったかを問う授業と対極をなす授業と認識している。つまり、指導意図より、子ども一人一人の有意義な自然体験が上位にある教科である。

本日は、ベテランの篠田達也先生が、二年生を引率して、学内を散歩する様子を拝見した。これも昨今の社会的諸事情から、多くの学校で禁止となっている、見つけた実を食べるという体験を、子どもたちが、ソメイヨシノとクワ(桑)について、行っていた。もちろん保護者の理解を十分に得て、行っている体験である。苦いソメイヨシノと、甘酸っぱいクワの実。実際に食べるに勝る経

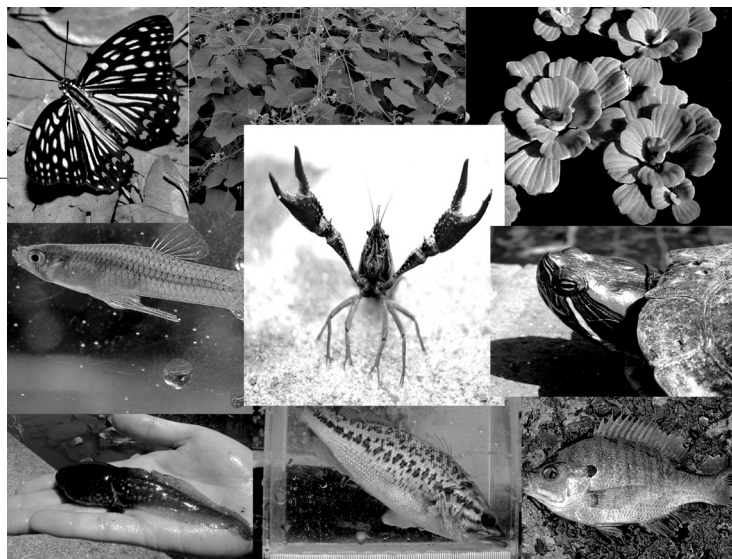
験はない。

そして、学内の成城池で、ザリガニ釣り。今回は、事前に池に行くことを話し、子どもたちは、思い思いに捕獲の道具を持って来ていた。

釣ったザリガニに触れる子、うまく触れない子。あまり教師は、支援しない。子どもたちで、「餌で注意をそらしているから。」「そっちらから触って。」などと声を掛け合いながら、恐る恐る触る子、勇

気があり過ぎて、ハサミに挟まれる子。友だちと行う自由な体験の中から、一人一人が何かを学んでいく姿が見てとれた。

授業動画の後に、学習院大学教授の飯沼慶一先生に、成城の散歩科・遊び科について講演をして頂いた。成城学園は、大正自由教育運動の実験校として誕生したが、低学年理科を教科化(自然科から発展)しようとする



これ、皆外来生物

流れの中で、諸見里、平田、谷の三教師によって、体験重視の礎が築かれた。その後、島田が、低学年の教科は、学問の系統に囚われない未分化教育が望ましいと考え、「自然による教育」「遊戯による教育」の二つを実践した。その後、この考えを引き継いだ昭和初期の教員たちによって、遊び科、散歩科の順に教科化されていった。

成城と異なり、国は、その後系統学習に偏っていったが、その反省として生まれた生活科では、成城学園のこの二教科が、大きく参考にされたという歴史的経緯をお話し頂いた。

その後、全く別の話として、ザリガニに代表される外来生物を、学校で飼育し、増やしてしまっていたのかという話をしてくださった。「外来生物法」に触れられ、生き物によっては、飼育していることを訴えられたら、多額の罰金を取られる、学校として信用を失うというリスクを抱えているという指摘だった。

アメリカザリガニは、特定外来種には指定されていないが、これは、指定して規制を厳しくすることで、逆に放流に走られないかということに懸念してだということだった。但し、教科書すら、ザリガニの飼育をメインで扱わなくなり、学習終了で、放流しようという記述がなくなった状況である。それでもアメリカザリガニを飼いますかという問題提起を最後にされた。

実際の授業と、歴史的経緯を知れる講演と、二方向から、散歩科について、詳しく勉強することができた。



学校紹介

新校舎の完成と 「学校劇百年目」

成城学園初等学校

校長 渡辺 共成

今から百年前の大正一〇年一月二七日に「第一回成城学校劇の会」が開かれました。これが、児童劇の始まりでした。その後、「学校劇」は成城から全国に広がり、「学芸会」として多くの学校で実践されるようになりました。「学芸会」の先駆けは成城学園だと言えるでしょう。本校では、今でも学期に一回ずつ年三回「劇の会」を開催しています。

さて、本校は明治期の文部高官であった澤柳政太郎が「本当の教育」を求め、大正六（一九一七）年に成城小学校を創立したことに始まります。

『私立成城小学校創設趣意』にありま
す「個性尊重の教育」、「自然と親し
む教育」、「心情の教育」、「科学的研
究を基とする教育」は、四つの「希望
理想」として百余年経った今でも決
して色褪せることはありません。

成城学園創立一〇〇周年記念の教
育環境整備事業の一つとして、本校
校舎新築・改修が二年前に実現し、
コロナ禍にあっても、児童の毎日の
学びの場になっています。

新しい校舎の特色は、学びやすい・
集いやすい・学年のつながりを強く

する校舎になったことにあり
ます。全児童の拠点となる普
通教室を二階にまとめ、一階
の中心にオープンスペース
「図書のへや」と「つながる
む」を据えることで学年を越
えた縦横交流を活性化してい
ます。また、敷地内の全校舎
を結ぶ渡り廊下を設けて、校
舎間の移動を容易にすると同
時に、どこからでも子どもの
動きが垣間見える賑やかな学
校の顔をつくっています。

また、子どものため
の居心地の良い校舎で
あることも特色と言え
ます。目にするところ、手に
触れるところに極力木材をつ
かい、木の温もりを感じられ
ます。分棟配置により外部と
のつながりを多くすること
で、自然光にあふれ、風通し
のよい、子どもの遊び心をく
すぐる空間がたくさん散りば
められたずっと学校に居た
くなる「校舎となりました。

日私小連第五八回東京地区
教員研修会は、本校を会場に
コロナ禍によりオンライン開

催となりましたが、それでも全体会
での動画配信や各教科研究部会の研
修会オンライン配信を通じて、広く
本校の姿やこれからの研修会や研究
会のあり方、あるいはアフターコロ
ナの学校教育のヒントなどをお伝え
することが出来たかと思えます。是非
コロナ収束後には、私立小学校ど
うしの交流の機会が、従来通りの一
堂に会するだけでなく、インター
ネットなどを活用し、あちらこちら
に日常的に生まれることを期待いた
します。



事務局から

令和3年度日私小連定期理事会(オンライン会議)報告

6月11日(金)令和3年度日私小連定期理事会(オンライン会議)が開催されました。新加盟校ならびに令和2年度事業等報告と令和3年度事業等計画が賛成多数で承認されました。引き続き役員の異動に伴い役員補選が行われました。また、全国教員夏季研修会の部会担当理事の選任、全国幹部研修会・結成80周年記念式典の準備状況の報告があり、滞りなく終了しました。

詳細は、各学校にお届けしました令和3年度定期理事会報告書をご覧ください。

令和3年度 日本私立小学校連合会役員

地区名	役職名	氏名	学校名
東京	顧問	小泉清裕	昭和女子大学
東京	会長	重永睦夫	(東京都市大学グループ) 学校法人五島育英会 前東京都市大学付属小学校
東京	副会長	中村貞雄	青山学院初等部
関東	〃	斎藤滋	桐光学園小学校
西日本	〃	山北浩之	城南学園小学校
北海道・東北	〃	土井智子	聖ドミニコ学院小学校
九州	〃	森日出夫	明星小学校
東京	常任理事	木村修二	武蔵野東小学校
〃	〃	横山豊治	清明学園初等学校
〃	〃	島野歩	文教大学付属小学校
〃	〃	南部浩士	田園調布雙葉小学校
〃	〃	佐藤有子	自由学園初等部
〃	〃	田中均	東京女学館小学校
〃	〃	山口博子	日本女子大学附属豊明小学校
〃	〃	北山ひと美	和光小学校
〃	〃	田代正行	立教小学校
関東	理事	岡崎一実	関東学院小学校
〃	〃	大野達夫	精華小学校
西日本	〃	祢津芳信	甲南小学校
〃	〃	森田哲	近畿大学附属小学校
〃	〃	井上恵二	追手門学院小学校
北海道・東北	〃	武藤浩之	桜の聖母学院小学校
九州	〃	二俣隆則	沖縄カトリック小学校
東京	監事	青木洋介	むさしの学園小学校
関東	〃	田川信之	森村学園初等部

令和3年度 日私小連全国教員夏季研修会 部会担当理事及び委員長

No.	部会名	担当理事	学校名	委員長	学校名
1	国語	杉浦重成	慶應義塾幼稚舎	安達真理子	カリタス小学校
2	社会	田中均	東京女学館小学校	東原秀郎	国立学園小学校
3	算数	祢津芳信	甲南小学校	鈴木純	学習院初等科
4	理科	森田哲	近畿大学附属小学校	天井比呂	雲雀丘学園小学校
5	音楽	中村貞雄	青山学院初等部	室伏唯史	学習院初等科
6	図工	土井智子	聖ドミニコ学院小学校	秋山朋也	成城学園初等学校
7	体育	木村修二	武蔵野東小学校	綾田満成	ノートルダム学院小学校
8	学校保健	山口博子	日本女子大学附属豊明小学校	鈴木もとみ	仁川学院小学校
9	学級経営	田代正行	立教小学校	大橋駿一	桐朋学園小学校
10	メディア教育	青木洋介	むさしの学園小学校	田中栄太郎	日本女子大学附属豊明小学校
11	学校図書館	岡崎一実	関東学院小学校	岩井祐介	慶應義塾幼稚舎
12	外国語	島野歩	文教大学付属小学校	合田紀子	青山学院初等部
13	家庭科	斎藤滋	桐光学園小学校	明石ゆかり	武蔵野東小学校
14	生活・総合	佐藤有子	自由学園初等部	大谷一途	慶應義塾幼稚舎
15	学校劇	北山ひと美	和光小学校	保坂弘之	成城学園初等学校

令和3年度 理事長・校長の異動 他

1. 理事長・校長の異動

(敬称略)

No	学校名	理 事 長		校 長	
		新 任	前任者	新 任	前任者
東 京 地 区					
2	雙葉小学校	菅場 基	和田紀代子	—	—
7	学習院初等科	羅 英一	内藤 政武	—	—
14	聖ドミニコ学園小学校	—	—	山下浩一郎	山崎 昭彦
15	成城学園初等学校	油井 雄二	渡 文明	—	—
16	昭和女子大学附属昭和小学校	—	—	真下 峯子	柴田 芳明
17	東京都立大学付属小学校	泉 康幸	高橋 遠	松木 尚	重永 睦夫
22	慶應義塾幼稚舎	伊藤 公平	長谷山 彰	—	—
27	立教女学院小学校	大澤真木子	糸魚川 順	児玉 純	佐野 新生
30	立教小学校	戸井田和彦	白石 典義	田代 正行	佐々木 正
34	東京三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
36	成蹊小学校	小林 健	佃 和夫	跡部 清	倉内 祐子
43	啓明学園初等学校	—	—	佐川 康博	原田 泰宏
46	晃華学園小学校	—	—	片桐有志司	田島 亮一
48	和光鶴川小学校	—	—	大野 裕一	加川 博道
50	東京創価小学校	谷川 佳樹	原田 光治	塩田誠一郎	山崎 秀樹
51	国立学園小学校	永井多恵子	黒井 千次	—	—
53	桐朋学園小学校	—	—	原口 大助	片岡 哲郎
関 東 地 区					
58	関東学院小学校	規矩 大義	増田日出雄	—	—
59	横浜雙葉小学校	鈴木 真	千葉 拓司	—	—
62	関東学院六浦小学校	規矩 大義	増田日出雄	松田 和憲	澤 章敏
65	慶應義塾横浜初等部	伊藤 公平	長谷山 彰	神武 直彦	尾上 義和
67	横浜三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	小原 義信	落合 均
71	大西学園小学校	—	—	大西 亜季	大西 浩
73	湘南白百合学園小学校	—	—	向井 民子	谷口 貞女
78	平和学園小学校	—	—	橘 明子	佐藤 陽明
80	相模女子大学小学部	風間 誠史	佐々木勝洋	—	—
82	七沢希望の丘初等学校	仲 早百合	小島 富司	大谷 京司	小島 富司
88	静岡サレジオ小学校	—	—	沼波 岳臣	末吉 弘治
97	日出学園小学校	—	—	荻原 巖	平山 淳子
100	三育学院大学付属光風台三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
105	暁星国際流山小学校	—	—	佐藤 智子	田川 茂
106	久慈川三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
西 日 本 地 区					
111	甲南小学校	小西新右衛門 (改名)	小西新太郎	—	—
113	愛徳学園小学校	上田 還子	能美 啓子	宮内 健一	能美 啓子
115	雲雀丘学園小学校	—	—	井口 光児	成地 勉
117	関西学院初等部	村上 一平	平松 一夫	大西 宏道	田近 敏之
118	仁川学院小学校	大水 恵一	園田 善昭	永尾 稔	大水 恵一
128	香里ヌヴェール学院小学校	—	—	東山さゆり	西山 哲郎
129	アサンブション国際小学校	マリア ジョセフィーナ マチアス	宮本 恵子	—	—
130	関西大学初等部	芝井 敬司	池内 啓三	—	—
131	賢明学院小学校	—	—	坂東 正	中原 道夫
135	関西創価小学校	谷川 佳樹	原田 光治	中西 均	松井 義明
146	京都女子大学附属小学校	—	—	玉村公二彦	富村 誠
153	南山大学附属小学校	—	—	鳥巢 義文	西脇 良
154	暁小学校	喜岡 渉	丸山 康人	—	—
162	広島三育学院小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	落合 均	田渕 裕
166	広島三育学院大和小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	北林 聡	田渕 裕
169	高知小学校	高瀬 久志	吉良 正人	—	—
北 海 道 ・ 東 北 地 区					
170	札幌三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
171	函館三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
175	ホライゾン学園仙台小学校	鳥崎 雄将	オズジャン メテハン	歩久 バリッシュ (改名)	アルク バリッシュ
九 州 地 区					
180	福岡雙葉小学校	—	—	河野 千春	中村 和子
189	鹿児島三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	—	—
191	沖縄カトリック小学校	—	—	二俣 隆則	夏見 隆晴
192	沖縄三育小学校	稲田 豊	鳥田 真澄	増田 敦	小原 義信

2. 新加盟校

九州地区

九州文化学園小学校

理事長：安部 直樹 校長：百津 真人

〒857-0024 長崎県佐世保市花園町 10-1

3. 校名変更

西日本地区地区

金剛学園小学校→大阪金剛インターナショナル小学校

訂正とお詫び

令和3年5月15日発行の会報356号に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

◎10ページの学校劇部会発表者の学校名

(誤) 京都文教短大附属 (正) 京都文教短大付属

2020年代の教育宣言

2020年代、私たちは多くの節目を迎えます。学制施行から150年。「大正新教育・八大教育主張講演会」から100年。私立学校振興助成法公布から50年。殊に1941年、国民学校令に合わせた私立小学校廃止の動きから「初等学校」の灯を守り、日本私立小学校連合会が産声をあげて80年となります。これらの節目において常に私立小学校は存在感を示してきました。この歴史に誇りをいただき「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」と言った古人にならい、私たちは新たな百年に向けて人を育てる営みを続けます。

2020年代は、人工知能(AI)の想像もつかない発達等によって劇的な社会変革を迎えると言われます。しかし、この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。

そのために、私たちは、

- 一、それぞれの建学の精神に則り多様な特長をもつ学校群として、伝統を重んじつつ、自由と人権、児童一人一人の個性を尊びます。
- 一、児童愛をかたときも離さず、児童の内なる可能性を引き出す方法を実践・探求します。
- 一、未来を切り拓く資質と心豊かな人間性を育成します。
- 一、真の世界平和と持続可能な環境の維持をめざして、広い視野をもって考え、共感する心や他者尊重の心を育みます。

私たちは、新たな時代に向けて私学人としての自覚を持ち、お互いに磨き合い、我が国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2020(令和2)年6月12日

日本私立小学校連合会